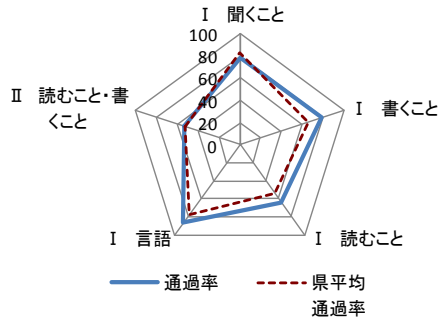


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.9%, 県 68.0%)

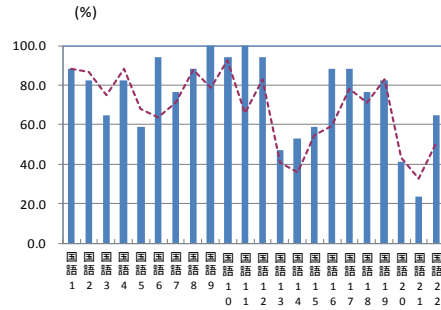
領域別平均通過率

領域別平均通過率(国語)

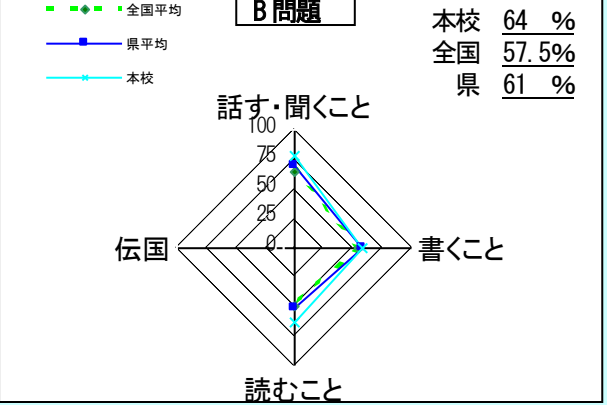
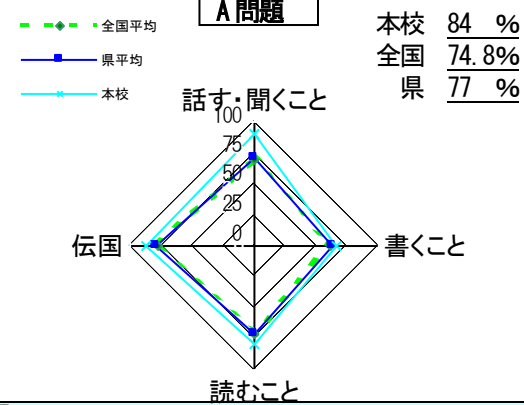


設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(国語)



全国学力・学習状況調査 本年度正答率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 情報の取り出し・情報を関係付けた記述に課題がある。「5 (3) 情報」通過率23.5%
- ◎ 時間が足りず、問題をすべて解くことのできない児童が2人いた。
- ◇ 「2 (2) 目的や意図に応じ、引用して書く」ことのできた児童は、50.0%。
- ◇ 「2 (3) 目的や意図に応じ必要な内容を整理して書く」ことのできた児童は、36.4%。条件を満たして指定された字数以内で書くことについても課題がある。
- ◇ 「3 (2) 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」は、その文章がどんな意図があるかということの理解が難しく正答率40.9%だった

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業等)

- ◎ 多くの情報から必要な情報を選び出すときに、目的を明確にし、必要な語や文を捉えさせ、それらを関連付けながらまとめさせる。また、取捨選択した情報の妥当性について話し合う場を意図的に設ける。書く必然性のある言語活動を国語等の教科、領域で仕組む。
- ◎ 時間を意識して課題に取り組むことを習慣づける。
- ◇ 普段から (日記・作文・振り返りなど)、字数や段落などの指定された条件を満たす課題を繰り返し行う。
- ◇ グループトークでは、目的意識を持って話し合いを進めさせ、広がり深まりのある話し合いになったか振り返りを行う。
- ※ 課題意識をもって読む学習指導を展開する。誰に何をどのように伝えるのか目的や意図を明らかにした「書くこと」を、機会をとらえて指導する。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	1～4年生 夏休み確認テスト			1～4年生 調査問題	1～4年生 ベネッセ学力調査		1～4年生 学年末テスト
目標値	70.0%			70.0%	70.0%		80.0%
実施後数値							

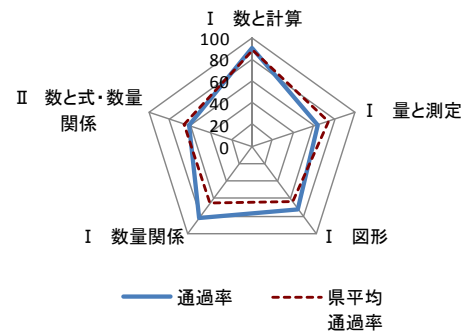
◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5・6年生 夏休み確認テスト			5・6年生 調査問題	5・6年生 ベネッセ学力調査		5・6年生 学年末テスト
目標値	70.0%			70.0%	70.0%		80.0%
実施後数値							

来年度に向けて

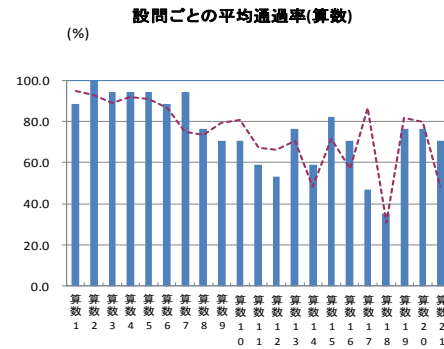
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 75.1%, 県 74.3%)

領域別平均通過率

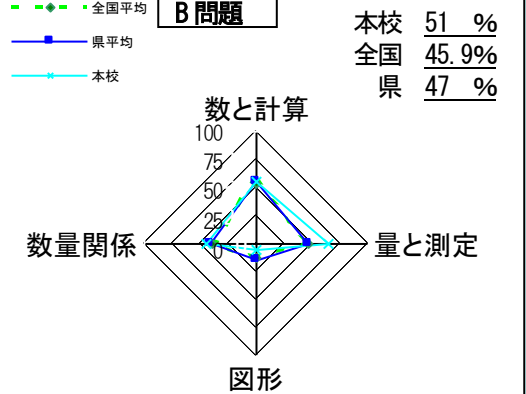
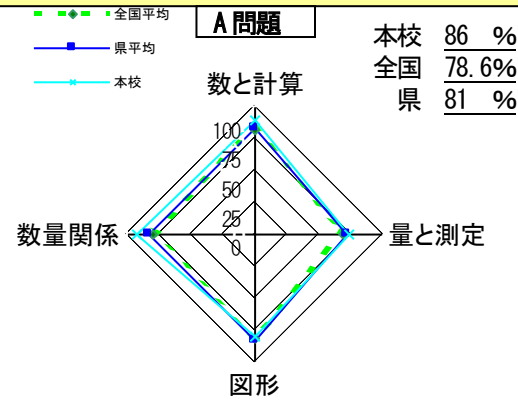
領域別平均通過率(算数)



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 二つの折れ線グラフの関係づけ (折れ線グラフの傾きと一目盛りのちがいの記述) ができていない。(通過率 35.3%)
- ◎ 目的に応じた計算結果の見積もり (およその数にしての計算の意味) ができていない。(通過率 47.1%)
- ◇ 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断し、判断理由 (最大の満月の直径に近い硬貨の選択とその理由) を記述することができていない。(通過率 4.5%)
- ◇ 数量関係のきまりを言葉と式で説明をすることが難しい。(通過率 31.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業等)

- ◎ 同じグラフであっても、折れ線グラフの縦軸の幅を変えることなどによって、見え方が異なることに気づかせ、紙面の大きさや目的に応じて、適切な一目盛りの大きさやグラフ全体の大きさを決める場面を設定する。
- ◎ 算数の授業だけでなく、日頃から数量について見当をつけて考えさせる。例えば、給食の全体量から1人分の量を見当つける。また、1人分5枚として17名分なら $5 \times 20 = 100$ 、100枚あれば足りるなど概算することのよさを実感させ、概数についての定着を図る。
- ◇ 割合に関して、乗車率や期間限定で増量した商品など、100を超える身近な割合に関心を持たせるとともに、考えたことを筋道を立てて論理的に言葉や式を使って説明する経験を多く取り入れる。
- ◇ 低学年の加法・減法、中学年の乗法・除法、高学年の数量の関係を表す式を図、表、グラフなどを用いて、式の表現とその読みについて継続的に指導していく。
- ※ 算数の時間だけではなく、総合的な学習の時間や社会科など様々な学習場面をとらえて、グラフを読んだりかいたりする学習を仕組む。その際、目的に合わせたグラフの種類や目盛り等を比較し検討する。

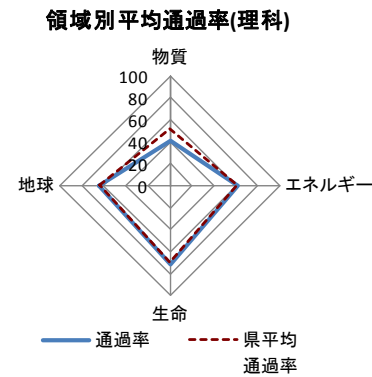
◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	1～4年生 夏休み確認テスト			1～4年生 調査問題	1～4年生 ベネッセ学力調査		1～4年生 学年末テスト
目標値	70.0%			70.0%	70.0%		80.0%
実施後数値							

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5・6年生 夏休み確認テスト			5・6年生 調査問題	5・6年生 ベネッセ学力調査		5・6年生 学年末テスト
目標値	70.0%			70.0%	70.0%		80.0%
実施後数値							

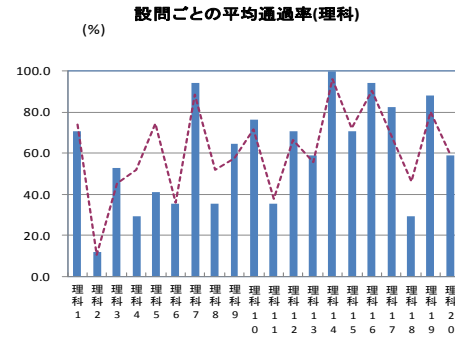
来年度に向けて

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 60.0%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

- ◎①予想に対して適切な検証方法を考え、またその検証方法を選んだ理由を説明することができていない。(通過率 11.8%)
設問内の人物が自分の学習した結果と違う仮説・予想をした場合に、それに沿った考え方をしたり説明したりすることが難しい。
- ◎②「太陽の動きと影の関係」で、影は太陽の反対側にできるということ、その位置関係を方位などの理科用語を使って正しく表現できていない。(通過率 29.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業等)

- ◎①予想を検証するための具体的な実験方法を工夫させる体験を積み重ねながら、予想と実験結果を関連づけて考えさせる指導を行っていく。
 - ◎②主語・キーワードを使って正確に記述する力をつけていく。そのためにノートやワークシートを活用していく。
- ※ 観察結果、実験結果の考察を筋道立てて書く書き方を指導し、習得させる。

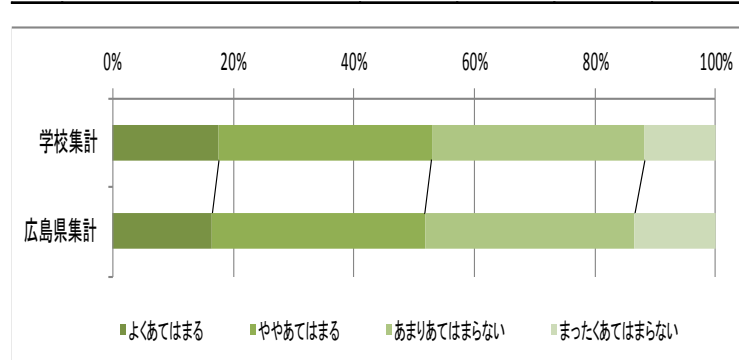
◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3・4年生 1学期末確認テスト			3・4年生 2学期末テスト	3・4年生 調査問題		3年生 学年末テスト
目標値	70.0%			80.0%	70.0%		80.0%
実施後数値							

◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5・6年生 検証テスト			5・6年生 2学期末テスト	5・6年生 調査問題		4・5・6年生 H29 調査問題
目標値	70.0%			80.0%	70.0%		80.0%
実施後数値							

来年度に向けて

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）

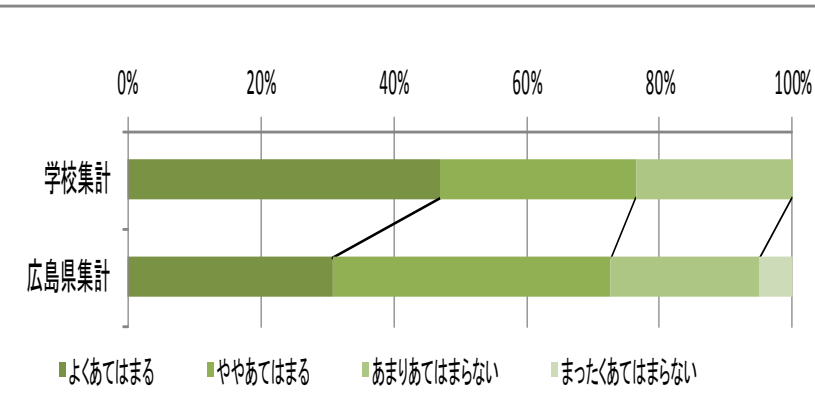
(1) 生活・学習



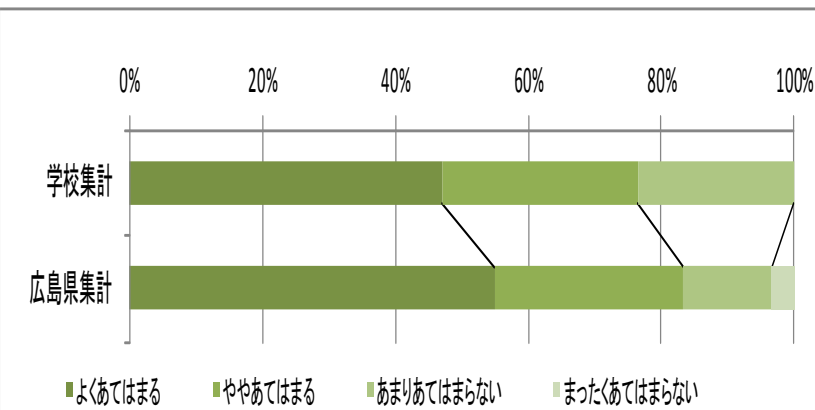
	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	「授業では、問題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」の問いに対して、47.1%の児童があてはまらないと答えている。	問題を解決するために、新聞や本を積極的に利用させてメモにとらせたり、資料を集めさせ取材させたりする場を設ける。	3	70%	アンケート	12月下旬		
			4					
全国	「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。」の問いに対して、2時間以上の児童の割合が50%いる。	保健・安全部で取り組んでいる「生活習慣定着カード」（げんきっずカード）を5項目に整理した点検を通して、生活習慣の見直しをするとともに、個別に指導していく。保護者に生活リズムの見直しの啓発をする。	1	生活習慣定着カード5項目の達成が50%以上達成した児童の割合が70%	生活習慣定着カード	11月		
			2					
			3					
			4					
			5					
			6					

(2) 教科

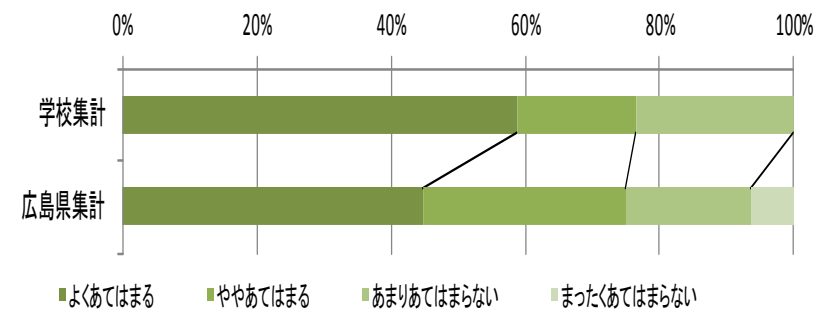
国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考
えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに書いています。



理科の授業では、理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだ
ことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



		児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本	「国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。」の問いに対して、23.5%の児童があまりあてはまらないと答えている。	考えを持つための「書く」「話す」時間を取り入れ、全員に考えを持たせるようにする。 目的を明らかにして、ペアトーク、グループトーク、朝の会での発表等、日頃の学習活動の中で、自分の考えを理由をつけて話したり書いたりする場を多く取り入れる。	3 4 5 6	80%	児童アンケート	12月下旬		
	全国	「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」の問いに対して、18.1%の児童があまりあてはまらないと答えている。	(ノートやワークシートなど書いたものを必ず残して積み上げるようにする。) 目的を持って聞くために、話の後に感想を言ったり、話のポイントを言ったりする場を設ける。	3 4 5 6	85%	児童アンケート	12月下旬		
算数	基礎・基本	「算数の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに書いています。」の問いに、23.5%の児童があまりあてはまらないと答えている。	例を示して、その例を使って自分の解き方や考え方の説明をノートに書かせるようにする。また自分のノートを使った発表をさせる場(ペア・グループ・全体)を多く取り入れる。	3 4 5 6	80%	児童アンケート	12月下旬		
	全国	「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」の問いに対して、22.7%の児童があまりあてはまらないと答えている。	既習学習を想起させ、そのいくつかを使わせて新しい問題が解ける活動を積み重ねる。	3 4 5 6	80%	児童アンケート	12月下旬		
理科	基礎・基本	「理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」の問いに対して、23.5%の児童があまりあてはまらないと答えている。	学んだことを身の回りにあるものを使って試してみる場やいろいろな選択肢を提示することで、どれが使えるのか考えさせる場を取り入れる	3 4 5 6	80%	児童アンケート	12月下旬		